

自己評価・外部評価 評価表

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	事業所評価				外部評価							
				実施状況				実施状況							
				できて いる	ほぼ できて いる	できて いない ことが多い	全く できて いない	できて いる	ほぼ できて いる	できて いない ことが多い	全く できて いない				
事業所コメント				外部コメント											
I 構造評価 (Structure) [適切な事業運営]															
(1) 理念の明確化															
①	サービスの特徴を踏まえた理念の明確化	1	当該サービスの特徴である「利用者等の在宅生活の継続」と「心身の機能の維持回復」を実現するため、事業所独自の理念を掲げている	9	18					8	6				・園の目指す方向性、地域包括ケアの理念を良く理解しているので職員が皆同じ方向性でケアにあたっていると思う。 ・自宅で最後までという実例が増えて地域の人たちをもっと身近に感じてもらえるサービスの提供を期待する。
①	専門技術の向上のための取り組み	2	管理者と職員は、当該サービスの特徴および事業所の理念について、その内容を十分に認識している	10	16	1				7	5	1			・理念を再認識する機会を作っており、職員も十分に認識していると思う。 ・提供サービス内容が全職員統一して行えるようにお願いします。
		3	運営者は、専門技術(アセスメント、随時対応時のオペレーターの判断能力など)の向上のため、職員を育成するための具体的な仕組みの構築や、法人内外の研修を受ける機会等を確保している	7	19	1				4	9				・研修内容を会議で報告していただき、技術向上につながるように工夫している。 ・出席した職員の伝達報告の機会があることは良いことだと思う。(話す側も再認識する機会になる) ・看護と一緒に研修をすることは医療面の視点から良い。 ・専門技術もさることながら、医療に関する知識の向上も図って欲しい。

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	事業所評価				外部評価					
				実施状況				事業所コメント	実施状況				外部コメント
				でき ている	ほ ぼ でき ている	でき て い ない	全 く でき て い ない		でき ている	ほ ぼ でき ている	でき て い ない	全 く でき て い ない	
I 構造評価(Structure) [適切な事業運営]													
(2) 適正な人材の育成													
①	専門技術の向上のための取り組み	4	管理者は、サービス提供時の職員の配置等を検討する際、職員の能力が最大限に発揮され、能力開発が促されるよう配慮している	6	20	1		<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の援助内容や特性をとらえ、職員の技術、接遇技術などから訪問先を決めている。 ・業務表は職員の勤務事情を配慮し作成している。 ・少人数で関わることは難しいので、同行訪問し同じレベルで対応できるように努めている。 	4	9		<ul style="list-style-type: none"> ・各職員の特技や性格を考慮されていると感じる。 ・管理者は同行訪問等で職員の技術レベルを合わせるよう取り組んでいる。 	
②	介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保	5	介護職・看護職の間で、利用者等の特性・状況に係る相互の理解・認識の共有のための機会が、十分に確保されている	9	16	1	1	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度から訪問看護との勉強会を適宜行い、個別ケースについて共有理解に努めている。変化のある利用者その他、難病指定、聞きなれない疾病、生命に関わる対応を要する場合には随時講座を開催している。 ・看護からもっと発信してもらいたい。 ・専門職の為か、考えや認識に差がある。 ・タブレットで連携していない訪問看護との共有は、緊急時や変化時には連絡取り合いが、普段の様子が見えてこない。 	3	10		<ul style="list-style-type: none"> ・看護との勉強会をしていることが連携会議でも報告があり評価できる。 ・事業所が隣接につき今後も更なる連携に努めて欲しい。 ・専門職であるがための認識の差はあるが、必要に応じて看護職の目や意見もあり大事である。 	

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	事業所評価				外部評価					
				実施状況				事業所コメント	実施状況				外部コメント
				でき ている	ほ ぼ でき ている	でき て 多 い ない	全 く で き て い ない		でき ている	ほ ぼ でき ている	でき て 多 い ない	全 く で き て い ない	
I 構造評価 (Structure) [適切な事業運営]													
(2) 適正な人材の育成													
①	組織マネジメントの取り組み	6	利用者等の特性に応じた柔軟なサービスを提供するため、最適かつ柔軟な人材配置(業務・シフトの工夫)を行っている	5	20	2	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の利用者の性格、ヘルパーとの相性、住んでいる地域等、総合的に判断し組み込まれている。 日勤帯はフレックス制とし、ニーズに合わせたサービスの提供を行っている。花火等の特別な時期のシフトも工夫した。大雪の中、車が動かない状況でも、歩いて訪問先を回った。 利用者の声やヘルパーの声を反映させたシフト作りを行っている。 	2	12		<ul style="list-style-type: none"> 利用者の生活に添った形で柔軟に対応されている。 利用者と職員の特徴を考慮して柔軟な人材配置を行っている。 頻繁なコールの方にもきちんと対応し、必要時には看護にも連絡している。 どんな状況でも訪問できるという事は利用者の安心にもつながる。 		
②	介護・医療連携推進会議で得られた意見等の適切な反映	7	介護・医療連携推進会議を適時適切に開催すると共に、得られた要望、助言等(サービスの過少供給に対する指摘、改善策の提案等)を、サービスの提供等に適切に反映させている	5	19	1	2	<ul style="list-style-type: none"> 委員の皆様から客観的に見て頂いた意見は非常に参考になり、常に反映させサービスの満足度に繋がるようにしている。 一般職員には、会議の内容が細かいところまで伝わっていなかった。 会議の内容等は公表すると共に計画作成責任者より職員へ通知し理解出来る様に努めている。 要望については改善できるように取り組んでいる。 	4	8	1	<ul style="list-style-type: none"> 会議が重なるにつれて専門的になってきている。 意見を検討し、反映させていく姿勢が良いと思う。 会議の内容を一般職員まで伝える事を望む。 	

タイトル番号	タイトル	項目番号	項目	事業所評価					外部評価				
				実施状況					実施状況				
				できている	ほぼできている	できていない	全くできていない	事業所コメント	できている	ほぼできている	できていない	全くできていない	外部コメント
I 構造評価 (Structure) [適切な事業運営]													
(4) 適切な情報提供・共有のための基盤整備													
①	利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備	8	利用者等の状況について、(個人情報管理に配慮した上で)必要に応じて関係者間で迅速に共有できるよう工夫されている	17	10			<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット共有で迅速に対応。リアルタイムに入力するからこそ有効な為、時間の誤差がないように入力している。利用者状況 ・手順書も新しいものに変更し、タブレットを活用し共有している。また、タブレットのノート機能の活用により紙媒体の資料を少なくし必要に応じて工夫している。 	11	2	1	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットで情報が早くやりとり出来、有意義に活用していると思う。 ・他のステーションや連携先でないにも関わらず出来ていると思う。 ・情報共有は出来ているが、タブレットが活用できているかは利用者には分からない。 	
(5) 安全管理の徹底													
①	職員の安全管理	9	サービス提供に係る職員の安全確保や災害時の緊急体制の構築等のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている(交通安全、夜間訪問時の防犯対策、災害時対応等)	10	13	4	<ul style="list-style-type: none"> ・車両事故対応や火災訓練等は事業所のみの問題ではない為、しなのサポートセンター4事業所合同で行うようにした。緊急連絡網も定期的に行い、日頃から予防対策している。 ・事故対策を取っているが車両事故が絶えないので、緊急ミーティングを行い各自の認識を深めている。 ・災害時対策も意識が薄れているので、訓練の繰り返しが必要。 ・マニュアル等対策されているが個々にしっかり把握するように確認が必要である。 ・深夜1人で訪問しているため、夜の防犯対策は不十分の為、対策検討中。 	4	5	<ul style="list-style-type: none"> ・常に運転が必要な職種なので、こぶし園全体として運転者の適正も考慮し、安全第一で業務に当たって欲しい。 ・職員の安全の為にも夜間の防犯対策は十分に検討配慮して下さい。 			
②	利用者等の個人情報の保護	10	事業所において、利用者等に係る個人情報の適切な取り扱いと保護についての具体的な工夫が講じられているとともに、管理者や職員において共有されている	16	11		<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット、紙媒体の業務表の取り扱いに注意している。紙媒体のものは、シュレッダーにかけ個人情報の保護に努めている。 	10	0	<ul style="list-style-type: none"> ・紙媒体のものは落とし等紛失に皆意識が必要だと思う。 ・タブレットを活用している時点で個人情報の取り扱いの教育や指導があったと思うが十分に注意して欲しい。 ・個人情報の取り扱いについては定期的に研修を行い、常に当事者意識を持って欲しい。 			

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	事業所評価					外部評価					
				実施状況					実施状況					
				でき ている	ほ ぼ でき ている	でき て 多 い	でき て い ない	全 く でき て い ない	でき ている	ほ ぼ でき ている	でき て 多 い	でき て い ない	全 く でき て い ない	事業所コメント
II 過程評価(Process)														
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供														
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成														
①	利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からのアセスメントの実施	11	利用者等の一日の生活リズムに着目した、アセスメントが提案されている	6	21					6	7			<ul style="list-style-type: none"> ・退院時のアセスメントを行った後でも在宅に戻ってからの課題を再アセスメントしており、利用者の生活に添ったサービス提供となっていると思う。 ・ケアマネでも知りえることが出来ない24時間の利用者や家族の状況を報告してもらっている。 ・一日の生活リズムが把握できるのはこのサービスだからそのメリット。本人の希望時間ではなくても、生活のリズムがわかるのでしっかりとアセスメントし、対応できていると思う。
		12	介護・看護の両面からのアセスメントが適切に実施され、両者の共有、つき合わせ等が行われている	8	16	3				2	10			<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントの方法はそれぞれで違うかもしれないが、このサービスの大事なポイントなので、共有する方法を検討し、突合せして下さい。 ・連携看護師、事業所との連絡体制など情報交換や報告がより共有しやすくなると良いと思います。 ・タブレット共有出来ないところの連携や情報共有に努めて欲しいと思います。 ・利用者の評価をヘルパー主体なのか、看護医療主体なのかをスケールで表すと良いのではないかと？ ・例 <p style="text-align: center;">-3 -2 -1 0 1 2 3 生活介護 ++++++ 看護医療</p>
②	利用者の心身の機能の維持回復や在宅生活の継続に軸足を置いた「未来志向型」の計画の作成	13	利用者の心身機能の維持回復に軸足を置いた計画の作成が志向されている	8	18	1				2	10			<ul style="list-style-type: none"> ・出来ないところ見極め、自立支援に向けて計画は立てている。 ・ご利用者の意欲を引き出すのは難しく、回復に至るケースが少ない。 ・残存機能を生かす計画作りをしている。 ・心身機能が維持出来る様に努めている。 <ul style="list-style-type: none"> ・心身機能を特に心に寄り添った計画作成する事は難しく感じる。 ・出来る部分に視点を多くあてる計画の設定を続けてほしい。 ・最終的には自立し、定期巡回サービスを利用しなくても在宅生活が送れる「未来」について、本人と一緒に考えられると良い。 ・離れて暮らす家族は安心しています。 ・利用者の意欲を引き出すきっかけを見つけ、スタッフ全員で情報共有していけると良い。

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	事業所評価				外部評価				
				実施状況				実施状況				
				でき ている	ほ ぼ でき ている	でき て 多 い ない	全 く で き て い ない	でき ている	ほ ぼ でき ている	でき て 多 い ない	全 く で き て い ない	
事業所コメント				外部コメント								
II 過程評価(Process)												
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供												
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成												
②	利用者の心身の機能の維持回復や在宅生活の継続に軸足を置いた「未来志向型」の計画の作成	14	重度化しても医療依存度を高め過ぎないように、利用者の今後の変化を予測し、先を見越した適切なリスク管理を実現するための、「未来志向型」の計画の作成が志向されている	2	②⑩	5		・重度化しないよう早期に、訪問看護へ相談し、医療に繋げるようにしている。 ・短期計画には着目できているが未来志向型という先まで変化を予測できていないことがある。入院・終了になるケースが多い。 ・変化に対して迅速な対応、先を見越したリスク対応を行えるような観察力等を高め計画に反映させている。	2	⑩		・ターミナルケアの看取りが出来る事は、在宅生活の継続の考えであると思う。 ・日々の状態把握と気づきが大事だと思います。 ・栄養評価の能力、感覚をつけて頂きたい。 ・看護の視点との共有は大切だと思う。
(2) 利用者等の状況変化への柔軟な対応と計画の見直し												
①	計画上のサービス提供日時に限定されない、必要に応じた柔軟な定期巡回・随時対応サービスの提供	15	計画上のサービス提供日時以外であっても、利用者等の状況に変化が生じた場合は、必要に応じて新たに定期巡回・随時対応サービスの提供日時を設定するなど、柔軟な運営に努めている	①⑦		10		・利用者の家族から要望があった場合、又訪問時に追加訪問が必要に思われた場合、随時訪問ができている。 ・オペレーターの判断により随時訪問が迅速にできている。 ・ご本人の状態や家族の事情に合わせて柔軟な対応をしている。	⑩	3		・本人の体調等に合わせて訪問を組んでもらった。今後も状況に合わせた柔軟な対応を継続してほしい。 ・緊急コールにも柔軟な対応が出来ていると思う。
②	継続したモニタリングを通じた利用者等の状況変化の早期把握と、計画への適宜反映	16	サービス提供を通じた、継続的なモニタリングによる、利用者等の状況変化の早期把握と、計画への適宜反映が行われている	①④		13		・毎月ごとにモニタリングを行い経過確認している。変化があればケアマネへ報告し、連絡を密に取り対応している。必要に応じて計画に反映している。	①①	2		・継続してモニタリングを行い変化に対応している。 ・身体状況や生活状況の変化に応じたサービス提供に努めて下さい。

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	事業所評価					外部評価				
				実施状況				事業所コメント	実施状況				外部コメント
				でき ている	ほ ぼ でき ている	でき てい ない	全 く でき て い ない		でき ている	ほ ぼ でき ている	でき てい ない	全 く でき て い ない	
II 過程評価(Process)													
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供													
(3) 介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供													
①	介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供	17	より効率的・効果的なサービス提供を実現するため、介護職、看護職のそれぞれの専門性を生かした役割分担が行われている	11	⑬			・医療処置が必要な方にヘルパーと訪問看護が同時に訪問したり、1日数回の訪問がある方は訪問看護に協力を得て、効率的に行っている。その際にはその都度お互いが情報提供を行い、共有に努めている。 ・訪問看護とヘルパーでお互いに出る事と出来ない事を把握した上で分担が行われている。	⑨	2		・状態変化について訪問看護へ速やかな報告があり悪化を防ぐ事が出来た。 ・業務独占を守りお互いに連携と情報提供が大切と思います。 ・連携型の看護事業所と協力し、利用者によりよいサービスの提供となっている。そのためには、タブレットでの情報共有は重要でフェニックスネットワークへの期待をする。	
②	看護職によるサービス提供に関する指導、助言	18	看護職から介護職に対し、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、指導、助言が行われている	11	⑭	2		・定期的に訪問看護との勉強会や研修等で助言をもらっている。 ・今年度より訪問看護と勉強会を実施し、情報共有、意見交換の場となった。 ・ヘルパーからアプローチした時は助言をもらっているが、看護からも積極的に、助言して欲しい。	⑧	3		・ノロウイルス対策時など、よく協力されているのを感じた。 ・訪問看護に積極的にアドバイスを求めて下さい。 ・利用者の為にとどの様に関われるのかが介護と看護の連携次第だと思います。 ・分析、評価、結果なので、時間を要し伝えきれない事がある。	
10													
①	利用者等に対する当該サービスの趣旨及び特徴等についての十分な情報提供	19	サービスの開始前に、利用者等に本サービスが「利用者の在宅生活の継続」と「心身の機能の維持回復」を実現するためのサービスであり、訪問サービスは、その趣旨に沿って行われるアセスメントに基づき提供されることについて、十分な情報提供・説明が行われている	8	⑩		選択なし 9名	・重要事項に沿って説明し、留意点をしっかり伝えている。しかし、利用者本人には制度が難しく、時折趣旨がずれて来た時は、その都度、わかりやすく説明し、ご家族にも伝えていいる。 ・ケアマネからも不足なことは、説明をもらっている。	3	⑧		・制度仕組が分かりにくいものである為、職員が統一した分かりやすい説明ができるようにして下さい。 ・きちんと説明されているし、ケアマネもこのサービスについての情報提供は行っている。 ・問題が起こらないよう記録に残したり、2人で対応するなどの方法が良い。 ・トラブルになりそうな時、質問があった時は全職員統一した根拠のある説明をお願いしたい。個々の職員がクレーム対応力を身につけてほしい。	

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	事業所評価				外部評価			
				実施状況				実施状況			
				でき ている	ほ ぼ でき ている	でき て 多 い	全 く い ない	でき ている	ほ ぼ でき ている	でき て 多 い	全 く い ない
事業所コメント				外部コメント							
II 過程評価(Process)											
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供											
(4) 利用者等との情報及び意識の共有											
②	利用者等との 目標及び計画 の共有と、適時 適切な情報の 提供	20	作成した計画の目標及びその内容について、利用者等に十分な説明を行うなど、共通の認識を得るための努力がされている	5	18	4	<ul style="list-style-type: none"> 計画書の変更など、家族にしっかりと面談し説明する事で、認識のずれがないようにしている。 情報提供するも利用者自身の目標達成意識は少ないように思われる。 援助時に声を掛け認識してもらうようにしている。 目標がタブレットに入力されているのでいつでも確認できるようにしてある。 	2	11	1	<ul style="list-style-type: none"> 目標を理解していない方や意識していない方も多いが、「在宅生活の継続」を目指している事は理解してもらえていると思う。また、サービス提供側も同じ考えだという事を伝えることも有効です。 丁寧な説明により利用者との意識のズレがない様、その人らしく分かりやすい目標が立てられると良い。 目標がいつでも確認できる姿勢が良い。
		21	利用者の状況の変化や、それに伴うサービス提供の変化等について、家族等への適時・適切な報告・相談等が行われている	10	16	1	<ul style="list-style-type: none"> 家族にはノート又はメモを残す、電話等変化時には説明と情報共有しながら家族の判断の所はお願いしている。 急変時には家族、ケアマネ等に連絡、報告出来る範囲での支援をしている。 ケアマネに依存している部分が多いので、ケアマネが不在だと、報告相談に努めているが迅速に行えない場合もある。 	4	11		<ul style="list-style-type: none"> 家族への状態変化等の連絡はもらっている。今後も継続して欲しい。 家族とのノート等連絡をきちんとする事は安心感にもつながるので、関係作りを大切に継続して欲しい。 家族との情報共有は信頼関係に繋がると思います。 家族対応困難なケースはケアマネへの伺いもきちんと出来ている。
2. 多職種連携に基づいた包括的・継続的マネジメント											
(1) 共同ケアマネジメントの実践											
①	利用者等の状況の変化についての、ケアマネジャーとの適切な情報共有及びケアプランへの積極的な提案	22	ケアマネジャーとの間で、利用者へのサービス提供状況、心身の機能の変化、周辺環境の変化等に係る情報が共有され、サービスの提供日時等が共同で決められている	12	14	1	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の変化時、担当者会議等によりサービス状況を報告しプラン変更にも提案できている。 一般職員は実際にケアマネと関わる機会が少ない。 	7	5		<ul style="list-style-type: none"> よく連絡を頂けていたので問題ない。 サービス担当者会議等では意見もでて、プランに対して提案できている。 ケアマネとの連携は利用者の為に必要と思います。
		23	計画の目標達成のために、必要に応じて、ケアプランへの積極的な提案(地域内のフォーマル・インフォーマルサービスの活用等を含む)が行われている	9	16	2	<ul style="list-style-type: none"> 問題点が出た時に提案することは多い。 地域で支える考えを基にヘルパー以外のサービス利用も提案している。 常にケアマネに情報を提供し必要なケアなど提案している。 	4	7		<ul style="list-style-type: none"> 身体介護以外の対応についてどこまで出来るか明確であると良い。 定期随時では対応が難しい生活援助サービスを行う代替サービスが必要。

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	事業所評価				外部評価				
				実施状況				実施状況				
				できて いる	ほぼ できて いる	できて いない ことが多い	全く できて いない	できて いる	ほぼ できて いる	できて いない ことが多い	全く できて いない	外部コメント
II 過程評価 (Process)												
2. 多職種連携に基づいた包括的・継続的マネジメント												
(1) 共同ケアマネジメントの実践												
②	定期的なアセスメント結果や目標の達成状況等に関する、多職種への積極的な情報提供	24	サービス担当者会議等の場を通じて、利用者等の状況や計画目標の達成状況について、多職種への情報提供が行われている	⑮	9	3		<ul style="list-style-type: none"> サービス担当者会議は必ず出席し、多職種の意見を聞き、サービス全体の情報を共有出来ている。 日常援助の内容の報告や、日々の困っている事があれば意見を求めたり、サービスの変更を検討してもらうように情報提供している。 アセスメント、モニタリングを通じて各サービスへの情報提供を行っている サービス担当者会議以外でも特変があれば情報提供している。ささいな気づきでも情報提供に努めている。 	⑪	1		<ul style="list-style-type: none"> サービス担当者会議だけでなくタブレットでも情報入力があり、情報提供はあると思います。 24時間のサービスの強みを生かして多職種に情報提供を行っている。 栄養状態の評価もお願いしたい。 ターミナル期のケースでは訪問看護や家族と情報共有し、異変の早期発見対応に繋がった。 多職種(他職種)の意見は参考になる事が多い。
(2) 多職種連携を通じた包括的・継続的マネジメントへの貢献												
①	利用者の在宅生活の継続に必要な、利用者等に対する包括的なサポートについて、多職種による検討	25	利用者の在宅生活の継続に必要な、包括的なサポート(保険外サービス、インフォーマルケア等の活用を含む)について、必要に応じて多職種による検討が行われている(※任意評価項目)	3	⑧	1	選択なし 15名	<ul style="list-style-type: none"> 会議等で検討している。 包括的なサポートが把握しきれていない。 	2	⑥		<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議を上手く活用できている。 生活支援サービスについて利用者アンケートをとり、必要なニーズ把握に努めている。
		26	病院・施設への入院・入所、及び病院・施設からの退院・退所の際などに、切れ目のない介護・看護サービスを提供するために、必要に応じて多職種による検討や情報の共有が行われている(※任意評価項目)	6	⑦	1	選択なし 13名	<ul style="list-style-type: none"> 退院時、スムーズに在宅生活ができるように、カンファレンスに参加し、情報共有に努めている。 退院の際にはカンファレンスを行っているが、ショートの入退所の情報をもっと密にする必要がある。 	2	⑥		<ul style="list-style-type: none"> 退院時の会議に病院側の医師やかかりつけの医師も参加すると良い。

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	事業所評価				外部評価			
				実施状況				実施状況			
				でき ている	ほ ぼ でき ている	でき て い ない	全 く でき て い ない	でき ている	ほ ぼ でき ている	でき て い ない	全 く でき て い ない
事業所コメント				外部コメント							
II 過程評価(Process)											
2. 多職種連携に基づいた包括的・継続的マネジメント											
(2) 多職種連携を通じた包括的・継続的マネジメントへの貢献											
②	多職種による効果的な役割分担及び連携に係る検討と、必要に応じた関係者等への積極的な提案	27	地域における利用者の在宅生活の継続に必要な、包括的なサポート体制を構築するため、多職種による効果的な役割分担や連携方策等について検討し、共有がされている <u>(※任意評価項目)</u>	6	⑦	2	選択なし 12名	・サービス開始時からフルサービスで組み込むのではなく、課題が出て来た際に検討している。	1	⑦	・できていないと判断した方の意見を反省材料として、今後のサービス提供に生かしてほしい。
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画											
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案											
①	介護・医療連携推進会議の記録や、サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信	28	介護・医療連携推進会議の記録について、誰でも見ることのできるような方法での情報発信が、迅速に行われている	⑭		13		・会議開催ごとに数日で会議録をまとめ、一般閲覧できるようにしている。 ・事務所入り口に見られるようにファイルしてある。	⑨	4	・迅速に会議録をまとめ、誰でも見ることが出来る場所に置いてある。
		29	当該サービスの概要や効果等についての、地域における正しい理解を広めるため、積極的な広報周知が行われている	11	⑮	1		・広報周知に時間を多くは取れていないが、定期的に説明する機会を設けている。 ・地域の方より、以前より定期随時の説明が分かりやすくなった。と話あり、以前よりもこのサービスの名称を聞かれる事が増えたので周知されてきている。と感じている。	⑥	5	・担当者会議でも広報活動を聞いており、高齢者センターやコミセン等で積極的に周知に努めている。寸劇など分かりやすい周知を行っている。 ・これから介護をする側への理解を深めることが大事であり、今後も広報周知を継続して欲しい。対象者によって内容を変えると良い。 ・長岡市の方でも広報活動をして欲しい。

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	事業所評価				外部評価				
				実施状況				実施状況				
				でき ている	ほ ぼ でき ている	でき て い ない	全 く で き て	でき ている	ほ ぼ でき ている	でき て い ない	全 く で き て	
事業所コメント				外部コメント								
II 過程評価(Process)												
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画												
(2) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画												
①	行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解	30	行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について十分に理解している	5	⑬	5		<ul style="list-style-type: none"> 行政からの通知や第6期計画等メール、郵送、ネットをあらゆる範囲で情報を収集している。 勉強会などを計画し、全体で学べる機会が必要。 計画内容の一部であると認識をもって援助を行っている。 勉強不足でわからない 	1	⑩	1	<ul style="list-style-type: none"> 事業所内研修等で、理解を深めてほしい。 このサービスは理解できれば、大変良いシステムであるし、期待できるものと考えられるので、地域での認知度を高めて欲しい。
②	サービス提供における、地域への展開	31	サービスの提供エリアについて、特定の建物等に限定せず、地域へ広く展開していくことが志向されている	11	⑭	2		<ul style="list-style-type: none"> 開設当初から、園の方針なので限定せず地域に向けて展開されている。 	⑦	5		<ul style="list-style-type: none"> 長岡市全地域で利用できると良い。 特定の建物に限定せず、広く地域に展開している。
③	安心して暮らせるまちづくりに向けた、積極的な課題提起、改善策の提案等	32	当該サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、介護・看護の観点から、まちづくりに係る問題認識を広い関係者間で共有し、必要に応じて具体的な課題提起、改善策の提案等(保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等)が行われている (※任意評価項目)	5	⑨	1	選択肢なし 12名	<ul style="list-style-type: none"> 連携推進会議によりさまざまな意見を頂き、サービス等へ反映している。 顔の見える関係づくりとして行政や包括からの会が開かれた際には参加しネットワークを広げている。地域の課題を掘り出し、提案していきたい。 	4	⑥	1	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議を活用し、サービスについての過不足を確認できると良い。また様々な意見をサービスに生かし、ネットワークを作っている。 生活支援についてコンビニとの協力等、地域資源を開発している。 地域から要望があった時は一緒に地域課題について考えていきたい。 新たなサービスの提案、開発を今後も行ってほしい。

タイトル 番号	タイトル	項目 番号	項目	事業所評価				外部評価					
				実施状況				事業所コメント	実施状況				外部コメント
				でき ている	ほ ぼ でき ている	でき が多 くない	全 く でき ない		でき ている	ほ ぼ でき ている	でき が多 くない	全 く でき ない	
Ⅲ 結果評価(Outcome)													
①	サービス導入後の利用者の変化	33	サービスの導入により、利用者ごとの計画目標の達成が図られている	9	⑬	2	<ul style="list-style-type: none"> ・目標達成できるように、計画書に沿って支援し、目標達成できるように努めている。 ・体調の変化などにより目標達成が困難な場合は、状態に合わせた新しい目標に変えている。 	4	⑦	<ul style="list-style-type: none"> ・目標達成に向かったの援助をお願いします。 ・目標達成に努め、見直しを行っている。 ・状態が改善し、通常のヘルパー利用に戻すこともあったので、適切に対応できる事業所だと思っている。 ・目標達成度を%で評価したらどうか？ 			
②	在宅生活の継続に対する安心感	34	サービスの導入により、利用者等において、在宅生活の継続に対する安心感が得られている	⑮	10	選択なし 2名	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート調査や訪問時では評価を頂いている。「ヘルパーさんのおかげ」と生の声も聞いている。 ・ご家族やご本人の声を援助を通して聞く事があり、その方を取り巻く周囲の人達の安心に繋がっている。と感じている。 ・利用料金の面でも助かっている。生活面の援助に制限が多い事に不満。 ・コミュニケーションの中で安心されている様子がみえる。ご家族より「気持ちが少し落ち着いたようだ」との声を頂いた。 	⑩	1	<ul style="list-style-type: none"> ・今のサービスで安心して暮らしていける。 ・一日に何回も訪問が予定されているため、利用者は安心していると思う。 ・安心度を%の評価したら良いのではないかな？ ・生活面の援助の制限はやはり不憫に思う。 ・「ヘルパーさんのおかげで」との言葉の中には遠慮などの気持ちもあると思われます。利用者の気持ちをくみ取れる様、対応に努めて欲しい。 ・自費サービスもあると良い。顔見知りの方々が対応してくれると安心します。 			